

人の役に立ちたい

シヨーン

高校2年生、17歳
神奈川県在住



子どもたちのためのボランティア

ボランティアを始めたのは中学2年生の頃です。僕の学校はキリスト教系の中高一貫校で、ボランティア活動をする委員会「愛の運動委員会」があり、僕はそのメンバーとして活動しています。ボランティアはいいことだと思っていたし、人を助けることにも関心があったし、また、友だちがその委員会に入るといので入りました。

委員会では、月に一度くらい日曜日に、さまざまな事情で親と離れて暮らす子どもたちの施設を訪問して、子どもたちといっしょに遊びます。委員会の最大の行事はクリスマス会で、毎年12月に施設の子どもたちを学校に招待して行きます。この活動はもう30年以上続いています。全校生徒に参加を呼びかけて、子どもたちと体育館やグラウンドで遊んだり、ゲームをしたり、学校のブラスバンド部の演奏会を行ったりして、一日中楽しめます。

子どもと生徒の2人でペアを組んで遊びますが、仲良くなって「もう帰たくない!」と言われたこともあります。彼らが喜ぶのを見るのは楽しみですし、子どもたちと接して、心が洗われるような新鮮な気持ちにもなります。

飢餓問題について学ぶ

去年の夏、この委員会の先生の紹介で、「高校生公益活動リーダー塾」という活動に参加しました。福祉や国際的な公益分野の活動に関心を持つ神奈川県内の高校生約30人を対象にした活動で、次世代のリーダー育成をめざして、8月に2泊3日で開



高校生公益活動リーダー塾で班ごとに意見を出し合う

かれました。

専門家から市民社会や国際公益活動、障害や児童虐待などの現状について話を聞いたり、活動に必要なスキルを学んだりしました。さらに参加者の関心によって四つの班に分かれ、班ごとにプロジェクトを考えて、発表しました。

僕が参加した「医療・生命」班は、飢餓問題をテーマに選びました。飢餓の現状を知ってとても驚いたし、日本人にも身近な問題だとわかったからです。例えば、世界では8億人以上の人が常に飢えていること、その一方、日本では毎年2,000万トンの食糧が捨てられること、この2,000万トンの食糧があれば7,000万人が1年間食糧に困らないこと、日本も40年程前まではユニセフの食糧支援を受けていたことなど、いろいろなことを学びました。そして僕たちは、問題を解決するためには、単に食糧支援をするだけでなく、人々が自らの力で食糧を確保できるようにすることが大切だと考えました。また、子どもたちが学校給食で栄養を取れば、授業に集中できるし、就学率も上がるし、将来に希望を持って自らの問題解決に取り組めるのではないかと考えました。

そこで僕たちの班の6人は、チャリティー（慈善）イベントを開いて飢餓の現状を地元の小中学生に伝え、集めた資金を途上国の給食支援のために寄付する企画を考えました。

学んだことを行動に

リーダー塾の終了後も班のメンバーで相談し、自分たちにできることを行動に移したいと考えて、このチャリティーイベントを実現するための活動を続けました。

必要な経費を集めるために、イベントを行う小学校の地区の商店を1軒ずつ訪ねてイベントの目的を説明し、寄付をお願いしました。すると、目標の2倍以上の金額が集まりました。初めて会うお店の人に高校生が寄付をお願いするのですから、甘くはないと予想していたので、この結果には驚きましたし、とてもうれしかったです。

12月の日曜日に行ったイベントには、多くの子どもたちが参加

してくれました。楽しみながら、飢餓問題について学べるよう、いろいろな工夫をしました。模造紙20枚以上を使って飢餓について展示し、サッカーやわなげなどのゲームも用意しました。また、フリー



小学校で開いたフリーマーケット

編集：ターナー（動物相学生）

マーケットでは、メンバーの高校で集めたぬいぐるみや文房具を販売しました。小学生たちは、想像もできないような大変な生活をしている世界の子どものことを知って、驚いたようでした。小学生に飢餓の実態を知ってもらえたと確かに感じました。フリーマーケットなどで集めた資金15,000円あまりは、全てWFP（国連世界食糧計画）に寄付しました。

イベントの直前は準備をするために、週に3、4回集まらなければならなかったのが大変でした。でも、世界のいろいろな問題の実態を調べるだけでなく、その原因を調べ、解決に向けて自分たちには何ができるかを考えて、行動に移すことができました。とても有意義な活動で、濃い時間を持てたと思います。

多くの人に伝えたい

リーダー塾の参加者の多くはこのようにそれぞれ活動を続け、今年3月の「ユース国際ボランティアフォーラム」(YouFo)*の開催にも携わり、これまでの活動について発表しました。今年は8校の34人がYouFoの実行委員になり、企画や渉外、運営などすべてを高校生が行いました。僕は副実行委員長を務めました。

当日はリーダー塾の班活動の成果に基づく四つの展示、講師による基調講演、ベトナムへの青少年ボランティア派遣団の報告、手話講座など、さまざまなプログラムを行いました。若い人を中心に約200人が来場し、当日のアンケートを見ると、「すばらしい学習成果だと感心した」「ボランティアを一度やってみてみたいと思った」「毎年参加したい」などの反響がありました。



さまざまな問題について高校生が調べてまとめたポスターに見入るYouFoの来場者

考えたこと学んだこと

リーダー塾やYouFoに参加した、僕と同じ学年の仲間の多くが次回も参加しますが、僕は今回でやめることにしました。高校2年生になって塾に通う友だちが増え、受験を意識するようになったのです。将来の進路について考え、勉強を優先しないといけないと思っています。

YouFoの実行委員は1、2ヵ月に1回くらい、役員はそれ以外に月に2、3回集まり、さらに展示の準備をするための班活動もあります。会合は平日の放課後5時から9時までかかり、家に帰って落ち着くと10時になることもありました。その上、分担した作業を家でもすることもあり、負担が大きかったのですが、自分で決めたことなのでやり通そうと思いました。

また、学校のクラブ活動などと重なるとYouFoの会合に出られず、フラストレーションを感じることもありました。会合をよく欠席するメンバーもいて、どうやってみんなで情報や考えを共有するかは難しい問題でした。YouFoの活動内容についても、ボランティア活動をするのと、その活動について発表することの二つのうち、後者が中心になっていないかという疑問の声もあります。それには僕も共感する部分があります。

でも活動を通じて得たことはたくさんあったので、参加してよかったと思っています。まず飢餓問題の知識を得たこと。それから、展示にあたりどう工夫すればよいか話し合い、みんなの意見を反映しながら作り上げていく大切さを知りました。活動の仲間やボランティアをする相手の人と、どうやってより良い関係をつくるかも学んだと思います。一つのことを成し遂げた達成感や充足感も得られました。違う学校の仲間といっしょに活動するのは、時間や場所の点で大変でしたが、挑戦したいと思いました。苦勞して努力したからこそ、形になったときに喜びを感じるのだらうと思います。

僕たちの活動の要は人です。多くの高校生に、こんな意識を持ってこんな活動をしている高校生がいると伝えたいと思います。そのためには、もっと高校生を惹きつける工夫が必要でしょう。ボランティアと言うと敬遠されてしまうので、それを前面に出さないで、高校生が関心を持つことと結びつけるとか、魅力的なキャッチコピーを作るとかできたらいいでしょうね。それは究極の課題かもしれません。YouFoの活動はやめても、これからも学校の委員会でボランティアをしながら考えていきたいと思っています。

将来の夢は医者になることですが、これも「人の役に立ちたい」という気持ちから選んだ道です。もし夢をかなえることができれば、地域密着型の医療に関係していきたいです。

* Youth International Volunteer Forum の略。詳細は「今日日本」を参照。

この原稿は、ショー（愛称）さんへのインタビューをもとにまとめました。